

平成 26 年度「淡路島定住自立圏共生ビジョン」の策定に向けた 竹内洲本市長と門淡路市長の意見交換（要旨）

実施年月日：平成 26 年 10 月 1 日

〔定住自立圏構想に関するテーマ〕

□ 定住自立圏構想の望ましい進め方について

1. 現在、淡路島は 3 市体制ですべきことの一部はすでに取り組んでいるが、今後は、より以上の効率化を求めて、島民のため、淡路島が一体となって取り組む必要がある。
2. 国や県は、この定住自立圏構想を 3 市体制で進めることを望んでいる。
3. 未参加の南あわじ市への呼びかけは、中心市の役割として、これからも続けていく。
4. 島民すべてが利益を得ることは、現実的には難しい。ただ、実現への近道は、お互いに支え合うことだと信じている。
5. 将来の行政合併を前提としたものではなくても、「島がひとつになる」きっかけとして、この定住自立圏構想という「財政的に有利な仕組み」を活用すればいい。
6. このような意見交換の場をこれからも継続していかなければならない。

〔個々のテーマ〕

□ 現在、直面している課題とその解決への道筋について

1. 「人口減少への対応」「企業誘致の推進」「雇用の場の確保」「地場産業の活性化」などが喫緊の課題である。
2. まちづくりのかたちとして、「コンパクトシティ」という考え方がある。端的に言えば、さまざまな利便施設や行政機能等を集約して、サービスを提供するという考え方である。そして、できればこれに「雇用の確保」を合わせて進めることが好ましい。
3. 人口減少の問題は、1 市では対応できる範囲が限られている。広域的に取り組むことで、一定の成果が期待できる。

□ 「港」「海（路）」の活用に関する見直しについて

1. 淡路島は、周囲を海に囲まれており、外部（島外）へのアクセスが重要である。そのため、「港」の有用性や「海（路）」の活用方法をもう一度見直すことが必要である。
2. 「港」「海（路）」の活用は、広い目で見れば、「瀬戸内海の連携」にもつながる。
3. 船便は、災害時の搬送に使うことができる。実際、平成 25 年淡路島地震の際は、震災翌日に、和歌山県岬町が船便で水とブルーシートを洲本市へ届けてくれた。

□ 神戸淡路鳴門自動車道の通行料金の引き下げについて

1. 通行料金が安くなった（※1）ことで、観光客が増え、宿泊客も以前より増えた。

さらに今後も通行料金引き下げの声を上げ続けていくことが必要である。

（※1）淡路IC～垂水IC間（片道：ETC搭載車料金）では、平日・土日祝日を問わず、普通車900円
（軽自動車750円）

2. 洲本IC～垂水IC間の通行料金は、安くなっていない（※2）。そのため、洲本市の
「お帰りのさいプロジェクト」では、通勤需要に対する支援を新たに行った。

今後は、淡路島で暮らしながら島外で働くことが十分可能であるというビジネススタイル
を定着させたい。

（※2）洲本IC～垂水IC間（片道：ETC搭載車料金）では、平日（通勤時間帯）の普通車は、平成26
年3月31日までは1,700円、同年4月1日以降は1,750円）

□ 地域医療の充実について

1. 定住自立圏構想の仕組みを活用して休日診療などに取り組んでいるが、理想論で言えば、
各市に1箇所以上、救急診療所があれば、安心して生活できる。

□ 教育環境の充実について

1. 平成27年度からの県内公立高校の「学区再編」により、島外へ学生が流出する可能
性が高いことが大きな課題である。

2. 各高等学校も危機意識を持っていると思うが、今以上に魅力・特色のある学校づくり
が必要になる。

3. 企業誘致に関しては、誘致や補助金とともに、そこで働く従業員の子どもたちへの教
育環境についても検討していかなければならない。

□ 自治体の今後の在り方について

1. 島内3市がすべて同じことを実施するのではなく、それぞれが役割を分担し、支え合
うことが大切である。

2. 人の確保に関しても、「各市域で囲む」という発想ではなく、これからは「淡路島全体
で確保する」ことを意識することが大切である。

以上。